

# 芦屋市自立支援協議会 令和7年度 実務者会 報告

令和7年度実務者会報告

新たに！  
目安箱・アンケートフォーム

令和7年度 実務者会の基本的な流れ

- 1 座談会や意見集約の仕組みによって、広く地域課題を集める
- 2 集約された地域課題を整理し、多方面から地域課題の分析を行う
- 3 課題がどうすれば解消できるかを話し合い、具体的に解消に向けた取組み指針案を作る
- 4 課題解消に向けた取組案の要件をまとめる

座談会や目安箱・アンケートフォームを活用し、専門部会での過去の取組みを検証・評価。次のアクションを検討する

## ●●令和7年度実務者会の開催状況 ●●

- ・第9回  
次年度実務者会・専門部会構成員の選定
- ・第10回  
振り返り・評価

## ●●今年度の成果 ●●

# 112件の声

## ●●浮き彫りになった3つの大きな課題●●

### 「居場所」の不足

職場で悩みを話せる相手や、当事者同士で繋がれる場がほしいというニーズ。

### 「障がい理解」の課題

学校、職場、警察、公的機関など、福祉専門職以外への理解促進。

### 「教育・保護者の不安」

進学・就業リソースの不足、  
そして何より「親の支援無き後」への深刻な不安。

## ●●次期専門部会計画 ●●

「つながる、続ける、  
安心できるサポートファイル」

サポートファイルのリニューアルに向けた「2年計画」

### 🔍 1年目：令和8年度

調査・構築期

徹底したヒアリングと調査を実施。12月までに運用実態に即した「叩き台（プロトタイプ）」を完成させます。

### 📋 2年目：令和9年度

検証・試用期

現場での試行運用を行い、フィードバックを受け最終化。配布および全体説明会を実施し、定着を図ります。

## ●●アドバイザーより●●

“ 単に新しいファイルを作るだけでは、  
過去の失敗を繰り返す（同じ轍を踏む）  
ことになる。

— 木下先生（第10回 講評より） —

## ●●成功のカギ「制度との連携」●●

### 鍵となるのは「相談支援との連動」

計画作成時の「ファイル有無」確認を必須化  
ツールと相談支援をセットで動かす仕組み  
本人の意向が尊重される芦屋の支援思想  
公立支援学級や県立芦屋特別支援学校(芦特)、福祉サービス  
事業所や行政と連携し、情報のバトンを繋ぎます。

## ●●安心のバトンを次世代へ●●

先輩保護者から新米保護者へ。  
誰もがこの地域で安心して暮らし続けられる仕組みを  
構築します。



ご承認とご協力をお願い申し上げます

